



鳥取市総合教育センターだより

第3号 令和6年9月27日発行

〒680-0053
鳥取市寺町 150 番地
TEL 0857-36-6060
FAX 0857-26-3878
E-mail
kyo-enter@city.tottori.lg.jp

Sow the seeds (種をまく)

所長 中村 礼子

今年度5年ぶりに「鳥取市グローバル人材育成事業」が実施され、8月31日(土)に市役所にて派遣報告会が開かれました。8月7日(水)から11日(日)までオーストラリアのケアンズへ派遣された20名の中学生とその保護者、関係者が集まりました。



グループに分かれてのセッションでは、派遣生徒から「いつもと違う環境だからこそ新たな視点で気づき、成長できた。」「勇気を出して一歩踏み出し、挑戦することは、未来への種まきに似ている。」「かなえたい夢はたくさんある。夢につながる経験ができた。」など、たくさんの感想が発表されました。また、最後の20人全員での意見交換では「自分って、すごく可能性があると思った。自分の可能性を信じて学んでいきたい。」「失敗や後悔もあった。だからこそ次の目標が見つかった。」などの意見がたくさん出され、未来につながる互いの学びを交流することができました。瞳を輝かせながら派遣研修で学んだことや自分の成長、今後どういかしていきたいかについて語る姿や、互いの経験や思いに聞き入る姿が印象的でした。

さて、来年度から、いよいよ国による「Plant 全国教員研修プラットフォーム」の活用が始まります。教員一人一人が、自らのキャリア形成に向けて主体的に研修を受講し、研修履歴を活用して管理職による受講奨励を行っていくこととなります。改めて、研修について見つめ直すよい機会になると考えます。今まで歩んできた経験や学びの足跡を振り返り、これから自分が目指す教師像に向かっていくために、今後どんな学びに挑戦したいと考えるのか。また、研修で学んだことをどう実践にいかしていくのか。まさに教師として未来への種をまき大きく育てるために、主体的に学びキャリアデザインしていく研修観の転換が求められています。

派遣報告会で、20名の中学生が自らの可能性を語ったように、わたしたち教師もまた、自分の可能性を信じて、挑戦し学び続けたいものです。

研修企画係

鳥取市が企画運営する基本研修と職務研修を企画し、今年度の研修も約8割が終了しました。今年度も「集合方式」「遠隔(各校)方式」「遠隔(会場校)方式」それぞれの特性を生かしながら研修を進めてきており、集合方式・遠隔(会場校)方式では対面で、遠隔(各校)方式ではグループセッションで、受講者同士の学び合いを促進するための対話やアウトプットの機会を設けています。また、本年度より「My アイデアシート」に「⑩受講前に課題意識をもつ」を加え、目的をもって受講できるようにするとともに、中堅教諭等資質向上研修・6年目研修・16年目研修では前回のMy アイデアシートを持ち寄り、その後の取組を共有することで、研修の連続性を受講者が意識できるようにしています。実際に、復命や校内OJTに活用していただいています。

ともに学ぶ～初任者研修・新規採用養護教諭研修～

4月からの実践を振り返り、「自らの成長」や教師としての「悩み・困っていること・自身の課題」を共有し、相互の実践に活かすことと、受講者相互の共に高め合えるネットワークを構築することをねらい、集合研修方式で行いました。小グループで協議や情報共有を行い、後半ではセンター指導主事がアドバイザー役として加わり、課題解決に向けての演習を行いました。

振り返りシート「実践したい My アイデア」より

- グループで課題や悩みについて話し合うと、それぞれの状況は違ってもみんな同じような思いを抱えているという事に気づくことができた。
- 普段は養護教諭だけの研修であるため、今回、教諭の方々と研修を受け、校種を超えた様々な気づきや幅広い関わりをもつことができ、貴重な機会であった。
- アドバイザーの方の話を聞くことができ、改めて全てをプラスに考え、楽しく子どもたちのために頑張りたいと思うことができた。教材研究を楽しくする。子どもたちに教えるプロという気持ちを忘れず、楽しく取り組みたい。



異業種に学ぶ

～校長研修、副校長・教頭研修・中堅研修～

校長研修②では、株式会社清水の清水昭生代表取締役社長、副校長・教頭研修②では、ヤマタホールディング株式会社山田雄作代表取締役、中堅教諭等資質向上研修④では昨年引き続き元鳥取市教育委員山脇彰子氏を講師にお迎えし、民間でのキャリアや企業経営に基づいた講話をいただきました。地域で活躍しておられる経営者からは、社員のモチベーションアップや活性化のためのリーダーの役割や取組を紹介していただきました。また山脇氏からは、今後の生き方やのキャリアについて考えるきっかけとなるお話をうかがいました。民間と学校では異なることはありますが、お話に刺激を受け、受講者それぞれが学校経営や今後の仕事を進める上で自分に必要なことは何かを考える学び多い研修となりました。

振り返りシート「特に心に残ったこと」より

- 他業種の取組を伺うのは新鮮で刺激になる。また、多角的に物事を見るのにも役立つと思う。
- 倒産がなく、また校長も年数が限られているための甘さがあると感じている。業績を常に意識し、社員の生活を守ることを考える企業経営者のお話は非常に参考になる。今後も継続してほしい。
- 学校現場以外のお話を聞くことができ、これからの自分自身の生き方や仕事の仕方を考える機会となった。だんだんと立場も変わっていくが、自分でできること、やるべきことに取り組みたい。

校種間連携の重要性について学ぶ

～幼保小中連携研修・外国語教育小中連携研修～

幼保小中連携研修や外国語教育小中連携研修では、校種間をスムーズに接続するために必要な子どもの見方、考え方について学びました。外国語教育小中連携研修では、中学校1年生の教材を使い、小中学校の先生が、小学校の既習内容を意識したB評価を一緒に考えることを通して、互いの学習について理解を深めました。振り返りに、「講師が例示したB評価のレベルが難しかった」「小中で話をする時間が必要」という感想がありました。研修をきっかけに、校区担当者が交流し、英語を使うことが必然となるような活動の工夫や日々の学習に必ず必要なB評価の立て方について連携していただけると、研修がさらに生かされると思います。

振り返りシート「特に心に残ったこと」より

- 「いかに興奮させないか」は、日々子どもたちと関わる中で「何となく」意識してきたことだったが、松久先生のお話の中で、刺激を与えない関わり方のよさの根拠や具体的な方策を教えていただき、改めてその必要性を感じ、よりよい対応をしようと思った。ハード面、ソフト面で整理できたことを若手の先生にも助言したい。
- 小・中それぞれの目標を把握して授業に臨むことが大切だと思った。単元ごとに適切にゴールや目標を設定し、さらに具体的なイメージをもっておき、それを達成していくことが、児童の資質能力の育成に繋がるのがわかった。

～ふるさとを思い 志をもつ人づくり～

姫路市・鳥取市中学生交歓会

■ ICTを活用した令和の姉妹都市交流

本市では、「ふるさとを思い 志をもつ人づくり」を進め、“夢と希望に満ちた次代”を“ひらく”！の基本理念に則り、児童生徒が地域や姉妹都市との交流を通して、「生きる力」の基礎となる豊かな人間性や、自ら課題を見つけ解決していこうとする意欲態度を育成することをめざし、交流事業を実施しています。その一つである「姫路市・鳥取市中学生交歓会」は今年で53回を迎える伝統ある事業です。現在はICTを活用したオンラインでの交歓会へと形を変えて実施しています。交歓会では、ICTを効果的に活用しながら、両市の伝統や産業、食文化について意見交流し、両市の絆を深めています。



第53回姫路市・鳥取市中学生交歓会

姫路×鳥取

今回の交歓会は、「グッズコラボ」「給食コラボ」「キャラクターコラボ」の3グループに分かれて、それぞれ姫路市と鳥取市の歴史や食文化等を組み合わせたものを考案しました。

交歓会当日は、それぞれのグループが考案したものを発表し意見交流しました。校長先生方もたくさん参観に来ていただき、生徒は張り切って意見交流することができました。



事前研修3回



当日発表



意見交流



ブラッシュアップして再提案

給食コラボグループ考案！ “姫鳥カレー”

事前研修会では全員で試食しました。交歓会当日は事前に撮影した動画でさらに美味しさが伝わる工夫をしました。今年も姫鳥献立給食に登場予定です。お楽しみに！



千三百年の伝統を受け継ぐ手漉き和紙

事前研修で漉いた因州和紙を絵葉書にして姫路の仲間へプレゼントしました。因州和紙の耐久性は千年とも言われています。姫路市と鳥取市の絆も千年、二千年と続くようお願いを込めてプレゼントしました。



参加生徒の感想より

- 姫鳥の活動は仲間づくり活動に始まり、調理実習や体験活動などいろいろありましたが、人との関わりを通して仲間の存在の安心感やありがたさを感じるものでした。また、普段の生活の中では、ほとんど関わる機会がない他の中学校の生徒会の個性あふれる仲間とのコミュニケーションはすごく刺激的でした。
- 今回の活動を通して、鳥取の魅力を再発見し、さらに新しい魅力を知ることができました。
- 話し合いをより良いものにするためには仲を深めることが重要であると体感しました。
- 今回の交歓会を通して様々なことを学び、それを吸収して自分の成長につなげることができました。

